

小山町立きたごうこども園評価「自己評価書」

令和6年3月

1 小山町立こども園 教育・保育目標

「金太郎のように 心ゆたかで たくましい子」

かんがえる子 やさしい子 げんきな子

2 園重点目標及び具現の方策

園重点目標 「自ら遊び、学べる子の育成」

具体的方策

- ・子どもの主体性及び自立性を育む教育・保育を基本とし、「生きる力の基礎」を培えるような保育を心がける。
- ・乳幼児一人一人の思いに寄り添い、応答的対話的なやり取りをする中で、その子なりの特性や発達する姿を保障する。
- ・身近な人や物・事とのかかわりを大切にし、直接体験をとおした創意ある保育を展開する。
- ・乳幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した保育の展開や振り返りの積み重ねをし、発達や学びの連続性を図る。
- ・園児・保護者・保育者（職員）・地域（小中学校を含む）との連携を図り、教育効果を高める。

3 項目別評価

評価項目	項目別評価	評価の理由	職員アンケート結果	保護者アンケート結果
園目標・教育目標	B	保護者への周知はできてきていると感じられる。職員間での理解をもう少し深めていきたい。	B	A
保育計画・教育課程	B	学年での共通理解する時間を定期的にとることが難しかったので来年度は計画を立ててすすめていきたい。	B	A
保育指導	B	職員が園児一人ひとりの気持ちに寄り添って保育するよう取り組んだ結果が保護者にも伝わったのだと感じられた。	B	A

保健管理・食事	B	感染症が流行りだすとすぐに対応を考えて動き出し、拡大防止につながった。	B	A
安全管理	A	日々の点検や防犯訓練等実施し、職員の意識も高まった。	A	A
特別支援教育	B	個々の力を引き出せるよう取り組んだ。保護者との思いの共有を深めていきたい。	B	
組織運営・情報管理	B		B	A
研修	B		B	
情報提供	A	コドモンになったことから保育の様子を保護者に伝えやすくなったと感じる。	A	A
保護者・地域との連携	B	地域や保護者に協力していただき、子どもたちの活動が豊かなものになっている。	B	B
施設・設備	B		B	B

4 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
研修	日々の保育をする中での研修時間の確保を心がけているが、職員の資質向上のためにはもう少し効率よく計画をたて、工夫をしていきたい。
特別支援教育	生活しづらさを感じている子と、その保護者との思いの共有と、対応方法についての共有の機会を増やしていきたい。
保護者・地域との連携	保護者、地域の方々から温かい支援をいただいているので、つながりを深める方法を工夫していく。

5 評価全体を通して（総評）

- ・「子どもまんなか社会」と子ども家庭庁の設置により、保育の在り方を振り返り「こどもたちのために」と子ども主導となる保育を試みてきた。「子どもの声を拾い上げ、温かい雰囲気大切にしながら「もう少し〇〇できそうだ」と職員が次につながる課題をもって取り組んでいこうとする前向きな気持ちが評価にもみられた。
- ・保育活動や行事等の見直しをしながらも、感染症状況等を考えて取り組むことで、子ども達にとって安全・安心な園づくりに努めることができた。

- ・コドモン導入により、職員から保育の様子の発信がしやすくなり、保護者からも評価していただいた。園保育教育を保護者に理解していただけて、職員のやりがいにつながった。

総合評価	評 価 の 理 由
B	・職員が園児一人ひとりに寄り添って保育するよう取り組み、その様子を保護者に発信したことで、子どもたちの安心・安全な園づくりに繋がり達成することができた。